

施政方針 平成24年度

平成24年第1回熊野町議会定例会において、町長が平成24年度の施政方針を述べました。

町政運営に対する所信と施策の概要をお知らせします。
(企画財政課)

【はじめに】

町長就任から4年目を迎え、今年も節目の年となります。この間、2度の地域懇談会を開催するなど、さまざまな機会、会合を通じ、住民の皆さんから町政に対するご意見やご要望を伺ってまいりました。昨年の地域懇談会においては、「第5次熊野町総合計画」を示し、今後のまちづくりの方向、地域の課題などを住民の皆さんと懇談しました。

政の運営に取り組んでまいります。
【町を取り巻く諸情勢】
■経済情勢への対応
昨年3月、未曾有の被害をもたらした東日本大震災により、日本経済は深刻な打撃を受けました。政府による数次にわたる補正予算など、現在も復旧・復興の努力がなされています。24年度の日本経済は、本格的な復興施策の推進により、着実な需要の拡大と雇用の創出が見込まれ、国内景気は緩やかに回復していくことが見込まれています。

こうした活動を基本に、また議員各位や、住民の皆さんのご理解とご協力をいただきながら、目指す将来像「ひとまち 育む筆の都 熊野」の実現に向け、町政の舵取り役として鋭意、町

格的な復興施策の推進により、着実な需要の拡大と雇用の創出が見込まれ、国内景気は緩やかに回復していくことが見込まれています。
■社会保障・税一体改革
政府では、「社会保障と税の一体改革」を推進しており、必要な負担を分かち

開所された福祉作業所「ハナミズキ」の取り組みなど、一人でも多くの雇用が確保できるよう支援を行います。感染症対策では、定期予防接種に加え、子宮頸がん予防ワクチンなどの任意接種事業を継続実施します。
【住民の誰もが尊重され、活躍できるまちとする】
県道瀬野呉線の道路拡幅に伴い、新宮コミュニティセンターを整備します。また、住民参加型のまちづくりを推進するため、財団法人民間都市開発推進機構の資金拠出を受けて、住民団体などが取り組む、まちづくり活動のハード整備に對して助成します。
【住民が創造力を発揮できるまちとする】
新年度も芸術文化振興事業を行います。広島交響楽団「弦楽四重奏の夕べ」、「木管五重奏公演」では、福祉施設、中学校での交流活動も実施します。さらに、人間国宝級の能楽師を招き、

本格的な能楽と狂言の公演を予定しています。
【暮らしの基盤が整ったまちとする】
広域的な道路整備では、東広島・呉自動車道の黒瀬・阿賀間が開通する予定から、縦横的な都市間移動が確保されると期待しています。
町内では、県道矢野安浦線の熊野黒瀬トンネル掘削工事が25年度の開通へ向け、本格的に開始されます。矢野安浦線と瀬野呉線を接続する瀬野呉線バイパスは、詳細設計が実施される予定です。県事業については、早期の完成を要望するとともに、円滑な推進に全面的に協力します。
深原地区町有地造成事業では、周辺道路の整備により、交通、流通の拠点としての位置付けが確立されると考えます。
暮らしやすい住宅の提供では、今後の住宅施策を総合的、計画的に推進するた

合うという観点から、消費税を社会保障財源化し、税率を段階的に引き上げるとしています。

本町における社会保障関連経費の増加傾向を踏まえ、国の動向に十分注視したいと考えています。

■筆産地の魅力拡大

昨年は、サッカー日本女子代表が世界一となる明るい話題がありました。この功績が称えられ、選手に国民栄誉賞が贈られ、その副賞として我が町の化粧筆が選ばれるという、大変名誉で、喜ばしいことがありました。引き続き、筆産地の歴史と文化を生かした町づくりを推進し、町の活性化に努めます。

【重点的な取り組み】

【子どもが健やかに、たくましく育つまちとする】
子育て支援については、小・中学生の入院医療費の助成と、就学前の子どもを対象とした医療費の無償化を引き続き実施し、子育て

世代の負担軽減を図ります。保育所では、基本的な保育のほかに、延長保育、病後児保育など、多様なニーズに対応します。

また、健やかな妊娠と出産を支援するため、妊婦健診を継続するとともに、母子感染対策としてウイルスの抗体検査などを行います。さらに、乳幼児の健康や発育の保持増進に努めます。

安心・安全の教育環境の充実として、熊野中学校西校舎と熊野第四小学校体育館の耐震補強工事（繰越事業）を実施し、さらに、熊野東中学校3棟、熊野第二小学校2棟の実施設計を行い、27年度の耐震化率の目標値80%に向けて事業を実施します。

基礎学力は、着実に向上しており、新年度も各種学力検査を実施し、児童・生徒一人ひとりに応じた指導を行います。また、学校支援員、生徒指導相談員を配置し、不登校気味の生徒に、

きめ細かな対応をします。

新たな事業として、0歳から中学校3年生までの児童・生徒を対象に、「うちどく」事業を始めます。家族間コミュニケーションや学力向上を図るもので、町を挙げての体制で臨みます。
【共に支えあい、健やかに暮らせるまちとする】
高齢者施策では、「第5期介護保険事業計画」の基本理念のもと、介護保険事業の円滑な運営に努めます。また、「地域包括支援センター」の機能強化や、見守りネットワークの充実を図ります。

障害者施策については、腎臓障害者通院助成を拡充するほか、発達障害を含めた乳幼児期から成人期までの一貫した相談支援体制の推進を図ります。また、災害時要援護者避難支援体制の構築に着手します。

さらに、障害者の自立や雇用促進については、先日

め、「町営住宅長寿命化計画」を策定します。

公共下水道事業では、新宮地区および平谷地区の一部で、約8haの整備を予定しており、完了後の普及率は、約90%となる見込みです。

上水道事業では、高所配水団地水道施設の整備を行うとともに、新宮地区を中心とした未給水地区の整備を進めます。

【日常生活を快適に暮らせるまちとする】

バス路線の廃止、高齢化の進行などから要望が多い「生活福祉交通」は、ワークシヨップなどで策定した計画に基づき試験運行を行います。

日常生活に密接に関連する町道ですが、東部地域では「深原公園線」を、西部地域では「出来庭川角中央線」新設事業を継続し、そのほかの町道も、拡幅などの一部改良を適宜実施します。

【安全に安心して暮らせるまちとする】

震災や集中豪雨などによる大規模災害に備え、総合防災訓練の実施や、非常用食糧などを計画的に購入します。また、防災行政無線放送は、電話で放送内容が確認できる電話音声案内装置を設置します。

【地球環境に調和したまちとする】

住宅用太陽光発電システム等普及促進事業は、単独町費で事業を継続します。農業振興対策では、イノシン防除施設の設置補助や駆除に加え、ヌートリア対策の拡充にも取り組めます。
【元気のある産業が育つまちとする】
伝統産業である熊野筆産業の持続的な発展のため、筆職人後継者育成事業や筆の日・筆まつり実行委員会への助成など、筆産業の振興に努めます。

木工対策では、10%のプレミアムを付加した商品券

を発行し、町内消費の拡大と町内商店、事業所の活性化を図ります。

観光対策では、地域資源を活用した観光圏の広域化を推進するとともに、民泊事業を検討します。

【筆産地の歴史と文化を生かした出会いと交流のあるまちとする】

筆の里工房で、東京国立博物館の特別協力により、「平家納経」の写本や源氏物語を展示します。

また、東京都心部に、「熊野筆セレクトショップ」を出店します。

さらに、石巻市で開催される「文房四宝まつり」に参加し、雄勝硯の産地復興を支援します。

新たな取り組みとして、全国への情報発信、地域活性化などを目的に、法政大学と包括的な地域連携協定を結び、同大学が有する情報や、ノウハウの活用などにより、開かれた町づくりをさらに推進します。